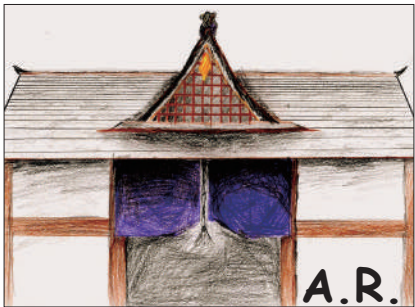




花鳥風月

季節は秋から冬に変わり、氷点下を下回る日もでてきました。12 月は旧暦の月名だと『師走（しわす）』と呼ばれます。禪師と呼ばれる、普段は落ち着いているお坊さんまで、忙しさのために走り回ってしまうということが由来となっているそうです。日本人は、12 月で一年の区切りをつけて新年を迎えたいという思いが強いからでしょう。



12 月に行われるお寺の一大行事といえば、「スス払い」でしょうか。いわば、現代でいう大掃除のようなものであり、ニュースなどで目にした事があると思います。昔は暖房や炊事、照明にも火を使う必要があり、それによって燃えカスがたくさん発生していました。その燃えカスとホコリが混ざったススが、天井に溜まっていくため、年末にまとめて掃除する文化が今も大掃除という形で残っているのです。スス払いの様子を一般公開しているお寺もあるので、自分の心の中のススも払ってもらいに行くのはどうでしょう。（ ）



今回は、図書館に常設されているコーナーについて紹介します。

今日は何の日？

みなさんは、図書館に入っすぐ左手にある「今日は何の日？」をご存知ですか？このコーナーでは、その日にまつわる人物や事象を取り上げて、それに関連した本を飾っています。例えば、11 月 7 日のコーナーだと「ロシア革命記念日」が取り上げられていて、ロシア革命の指導者であるレーニンなどの本が飾られています。

コーナーの更新は毎日行っているので、なかなか関連する本が見つからなくて苦労する日も多いです。それでも、仕事に対する丁寧さは欠かさず、「今日は何の日？」を継続しています。

自分から探すようなことはなかったジャンルの本とも出会える。それが、このコーナーの最大の魅力だと考えています。ぜひ、新たな出会いを求めて、3 階図書室までお越しください。（ ）



常設の「今日は何の日コーナー」



夕見夏衛 著
スターツ出版



中島岳志 著
NHK 出版

クラス中から無視されるいじめを受けていた光夏（ひな）。夏休み明けの 9 月に幼なじみ 3 人と再会し、光夏を励ますように寄り添い続けるが……。

この本は、いじめと友情を題材とした作品です。いじめを受けていることを周りに知られるのは恥ずかしい。そう考えていた光夏が、幼なじみと関わることでどのように変化するか。

この本を読んで、自分の相談を親身に聞いてくれる友達のありがたさを痛感し、今いる友達を大切にしたいと思いました。

幼なじみによる光夏への優しさや、本音を伝えるまっすぐな言葉が、胸をいっぱいにさせてくる一冊です。（ ）

『君はきつとまだ知らない』

『自分ごとの政治学』

皆さんは自分自身の政治的な立ち位置をご存知でしょうか。そもそも、あなたにとって政治とは何を意味するのでしょうか。

本書では政治を「簡単には分り合えない多様な他者とともに、何とか社会を続けていく方法の模索」としています。そのためにも他者を理解し、自身を理解することが必要です。そして、その先に待つのは政治参加。私は何かを作り上げることこそ価値があると思います。一人ひとりが自分だけの政治観を持つ社会はどれだけ面白い社会なのかと思うと胸が高鳴ります。

本書はそのような一歩を手助けしてくれる一冊です。（ ）



このコーナーでは、局員が今までに読んだ本を評価とともに紹介していきます。

この本は4つの物語によって構成されています。中華料理屋でバイトをして暮らす女性。嘘ばかりいう少年。暖かな日々を送る良夫婦。プラスチック工場に勤める男性とその同僚。彼らはみんな少し世間とずれている部分がありますが、真っ直ぐで綺麗な心を持っています。そんな彼らの過ごす日々の中で起きる、ほんの小さな出来事によって生活が崩れてしまう様子を描いています。それはとても突然で、私たちが明日を過ごす中に起こるかもしれないような感覚をもたらします。

おどろおどろしく、それでいて美しい真っ黒な塊。公園で野球している時、謎のおじさんがくれる黒飴。その印象は僕の心を掴んで逃さなかった。今も僕はこの本の作者の虜です。人間の本質とは。そんな作品を読みたい人にぜひ。（ ）



『とんこつ Q&A』
今村夏子 著/
講談社

え？度

衝撃度

ほっこり度



お金はどこへ消えた。まるで知ってはいけないようなことを探っているようで、好奇心を掻き立てられる。そのような賃金は上がらないが、物価は上がる一方である状況をスタグフレーションと呼ぶらしい。すでに現状を表す言葉がある時点で、これは資本主義経済の節理であるのかも知れない。苦しい家計もあれば、豊かな家計もあると思う。皆さんの家計状況はどうだろうか。主観であるが、社会は前者に焦点を当てがちだ。しかし、そのような状況下でも後者のように儲かる人は現れる。フランスの研究グループの報告書は、世界の成人人口の上位 1%の富裕層だけで、世界全体の個人資産の 37.8%を保有しているとしている。では、中でも「富豪」と呼ばれる二人を紹介しよう。

ジョン・ロックフェラー（1839-1937）（米）

資産：当時のアメリカの GDP の 1/65（死亡時）

キャンディーを 1 ポンド単位で購入し、それを小分けにし、兄弟に売って大きな利益を上げた。これは彼の少年時代のエピソードで印象的だ。

彼は 16 歳のとき簿記助手の職を得ていたが、退職した。彼は石油に目を付け、副業程度に石油精製会社「スタンダード石油」を設立。彼の設立した会社は、「トラスト」によって株式を保有する企業を傘下にし、独占的に勢力を拡大した。そのような体制により、社会からの風当たりが強くなり、結果的にスタンダード石油は解体に追い込まれた。

一方で彼には敬虔なクリスチャンであるという一面もあった。彼は少年時代から寄付を続けており、それを欠かすことはなかった。なかでもシカゴ大学が彼の寄付によって設立されたことには驚きだ。しかし、このような慈善事業は、非道な行為を覆い隠そうとするものであるとして、大衆から声高に非難された。彼は教会の財政危機を救うために寄付を募ったことがある。この時初めて「もっと稼ぎたい」と思ったらしい。しかし、彼が「トラスト」という体制を取り続けたことにより、彼の「もっと稼ぎたい」という希望は「支配」という欲望に転化したのだと私は感じる。

イーロン・マスク（1971-）（米）

資産：2212 億米ドル

皆さんペイパルを知っているだろうか。ペイパルは PayPay のような決済代行サービスであるが、実はペイパルはマスク氏が売却した企業である。このように同氏は、起業しては売却して次の新事業に投資する「シリアル・アントレプレナー」というタイプの事業家だ。ペイパルの売却によって得た資金 15 億ドルは、2002 年にスペース X の創業に投じられた。

イーロン・マスクは技術オタクである。それは、10 歳の時にプログラミングを独学でマスターし、12 歳の時には自作のゲームソフトを売り、500 ドルを得るほどである。彼の両親は離婚しており、さほど裕福ではなかったため、肉体労働を経て、彼はペンシルベニア大学に入学した。しかし、わずか二日間で退学。理由は「ウェブサイトの開発などを支援するソフトを提供したい」という思い付きによるものらしい。そして、父から借りた資金をあてに ZIP2 という企業を設立したが数年で売却。その資金を前述したペイパルの創業に使い、売却。そして、現在のスペース X、テスラに至る。さらに、つい最近 Twitter 社も買収した。これこそまさに、「わらしべ長者」の頂点である。

終わりに

お金を追いつけてみよう。私達の使ったお金は回り回って自らの手元に戻ってくるのだろうか。一人の富豪の手元に渡り、停滞したままなのか。お金とは私達の見える範囲内でのみ動いているわけではない。だからこそ、お金を追えば私達の見えない裏の世界が見えてくるはずだ。そのことを踏まえた上で「消えたお金」について考えてみよう。お金とは単に消費活動に使用されるだけのものではないのだ。

図書館には様々な人物に関する伝記があるぞ。伝記はその人の心の動きと行動の因果性、人格が形成されていく過程がそれぞれ明確であるため、私は自身と照らし合わせて読むことができるぞ。ぜひおすすめしたい。（ ）

